

先生向け詳細資料

森を守るFSC®マーク
-知って学んでアクションに繋がよう-

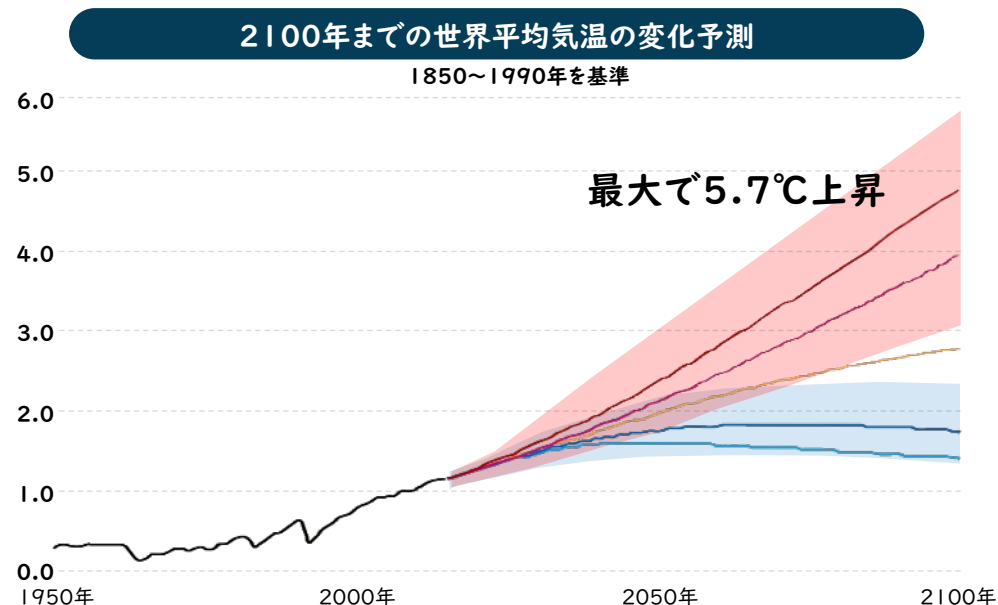
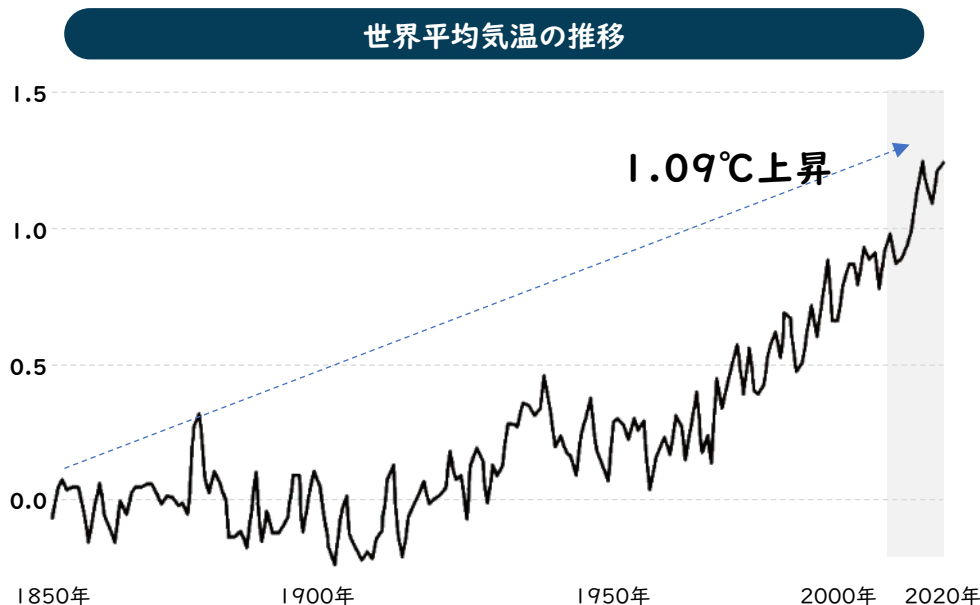
FSC®F000218



地球温暖化の現状

2021年8月、国連気候変動に関する政府間パネルIPCC (Intergovernmental Panel on Climate Change) は、地球温暖化の原因は人間の活動だと初めて断定したうえで、2011~2020年の世界平均気温は、産業革命前と比べ、すでに1.09度上昇していると発表しました。

気温の将来予測について、21世紀半ばに『**実質CO2排出ゼロが実現する最善シナリオ** (右グラフの水色一)』においても2021~2040年平均の気温上昇は50%程度の確率で、1.5℃に達する可能性があると発表しています。『**化石燃料依存型の発展の下で気候政策を導入しない、最大排出量のシナリオ** (右グラフの赤色一)』においては、今世紀末までに3.3~5.7℃の昇温を予測しています。



※ 出典: 気象庁「IPCC AR6 WG1報告書 政策決定者向け要約 (SPM) 暫定訳」p.5, p.24 <https://www.data.jma.go.jp/codinfo/ipcc/ar6/index.html>

地球温暖化対策における森林の役割

- 地球温暖化を防ぐためには、大気中への二酸化炭素放出を減らし、さらに、大気中から二酸化炭素を取り除くことに取り組む必要があります。
- 植物には、半永久的に利用可能な太陽からの光エネルギーを利用して、大気中の二酸化炭素を有機物として固定するという重要な働きがあり、特に樹木は幹や枝、根などの形で大量の炭素を蓄えています。
- 製品としての木材を住宅や家具等に利用することは、木材中の炭素を長期間にわたって貯蔵することにつながります（**炭素貯蔵効果**）。
- 木材は、鉄等の資材に比べて、製造や加工に要するエネルギーが少なく製造・加工時の二酸化炭素の排出量が抑制されることとなります（**省エネ効果**）。
- 木材のエネルギー利用は、大気中の二酸化炭素濃度に影響を与えない「カーボンニュートラル」な特性を有しており、化石燃料の使用を抑制することができます（**化石燃料代替効果**）。
- 気候変動枠組条約では、森林などの二酸化炭素の吸収源の保護・増大対策推進が全ての締約国に対して求められており、京都議定書では、先進国の各国に対し、二酸化炭素などの温室効果ガスの削減目標を設定し、「新規植林」、「再造林」及び「森林減少」による二酸化炭素の吸収・排出量を報告することが義務づけられました。

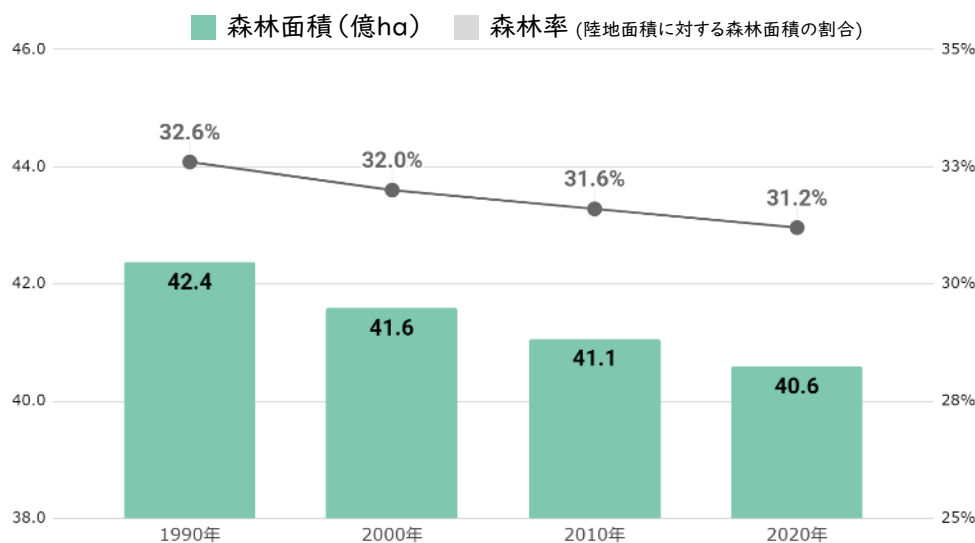
※ 出典：林野庁「地球温暖化防止に向けて」https://www.rinva.maff.go.jp/i/sin_rivou/ondanka/ 「京都議定書において森林吸収量の対象となる森林とは」https://www.rinva.maff.go.jp/i/sin_rivou/ondanka/29141114_topics4.html

森林破壊の現状

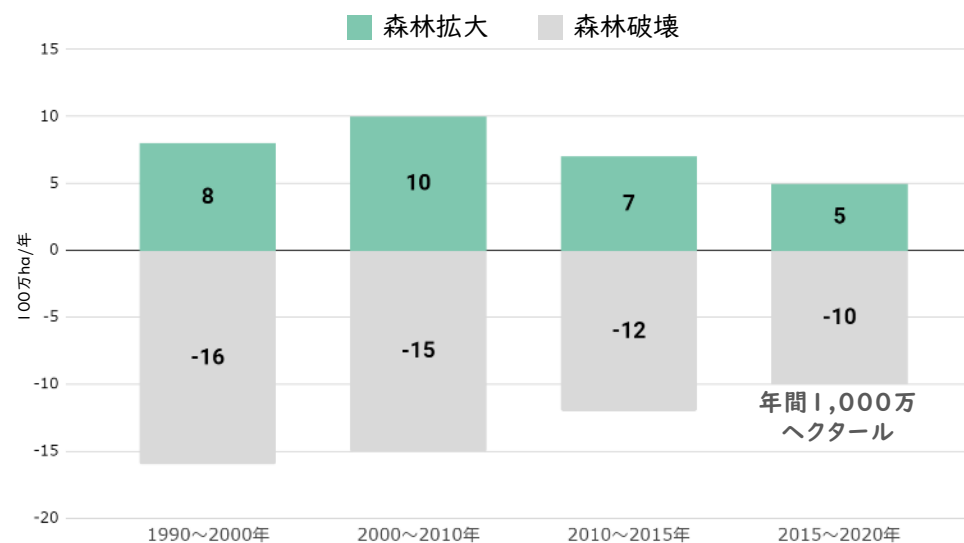
1990年に、42億3,000万ヘクタール（地球の陸地面積の32.6%）だった世界の森林面積は、2020年になると約40億6,000万ヘクタール（同31.2%）にまで減少。国連食糧農業機関（FAO）の報告書、「森林資源評価報告書2020」によると、1990年以降、世界では4億2000万ヘクタールもの森林が、農地や植林地として利用するため、大規模に転換され、失われてきました。

森林の減少ペースは、徐々に鈍化してきているものの、直近の2015年から2020年の5年間で年間約1,000万ヘクタールもの森林が無くなっており、まさに「待ったなし」の状況にあるとって過言ではありません。

世界の森林面積の推移



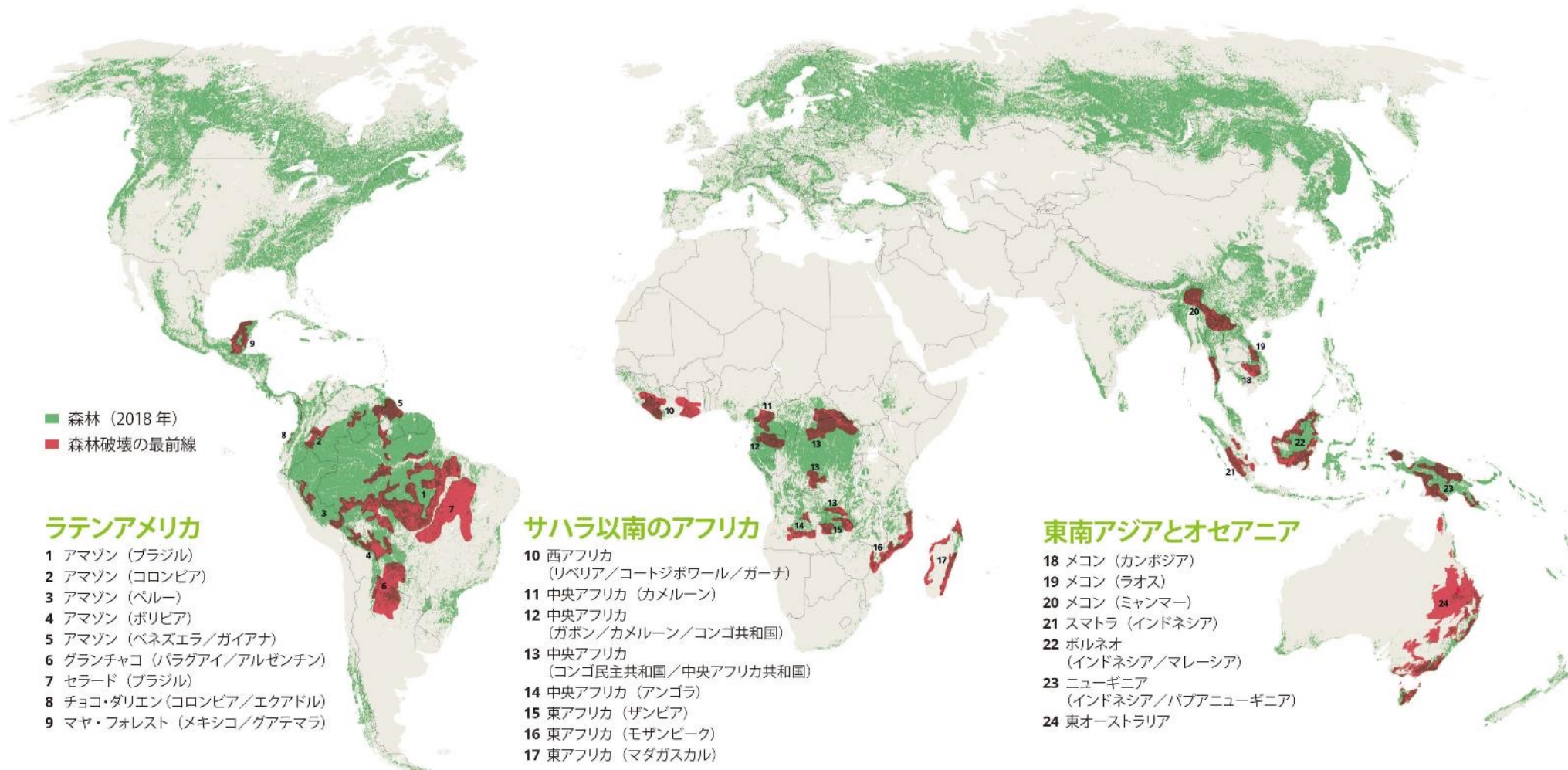
森林拡大と森林破壊の年率



※ 出典: 左) 森林・林業学習館: https://www.shinrin-ringyou.com/forest_world/menseki_world.php 右) 林野庁「世界森林資源評価2020主な調査結果 (仮訳)」Jp.5: <https://www.rinya.maff.go.jp/j/kaigai/attach/pdf/index-4.pdf>

森林破壊が深刻な地域

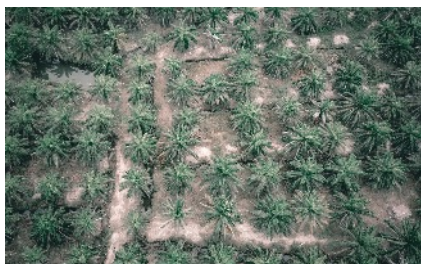
2000年から2018年に失われた世界の森林面積の少なくとも3分の2が熱帯地域と亜熱帯地域に属しており、2004年から2017年までの間に、世界24カ所の「最前線」で、日本の1.2倍に相当する4,300万ヘクタール以上の森林が失われました。



※ 出典: WWFジャパン「森林破壊の最前線: 変わりゆく世界における森林減少の要因と対応 要約版」p.6, p.7 <https://www.wwf.or.jp/activities/activity/4547.html>

森林破壊の原因 (1/3)

森林減少の原因はさまざまです。プランテーションといった農地等への土地利用の転換、無計画・過剰な木材資源の調達、違法伐採のほか、森林火災なども原因となっています。



放牧地や農地への転換

世界的な食料やバイオ燃料等の需要増加により、東南アジアでは森林を伐採してアブラヤシのプランテーションへ、アマゾンでは森林をサトウキビ農園や牧場へ転換する土地利用の転換が増加しており、もともとその土地にあった自然環境が失われています。



無計画・過剰な木材資源の調達

開発途上国においては、日常生活の燃料として薪や炭を利用しており、そのために森林が伐採されています。伐採後に森林を再生するためには、植林をしたり、自然に芽が出て木が育つよう計画的に伐る必要があります。また、森林全体の木の量を把握して、伐りすぎないようにすることも重要です。こういった配慮をせずに、無計画に伐られた木材が流通しています。



違法伐採

違法伐採とは、それぞれの国の法律に反して行われる伐採のこと。違法伐採は、森林の減少・劣化をもたらすだけでなく、伐採した後の植林や管理の費用が含まれていない分、国際市場で不当に安い価格で流通されるため、適切な森林管理を進めるうえでの妨げにもなります。

森林破壊の原因 (2/3)

森林減少の原因はさまざまです。プランテーションといった農地等への土地利用の転換、無計画・過剰な木材資源の調達、違法伐採のほか、森林火災なども原因となっています。



森林火災

落雷などによる自然発火のほか、焼畑農業や農地開発のための火入れ、焚き火やタバコなどの不始末、放火など人為的な原因によるものもあります。近年では気候変動による乾燥化から、アマゾンやオーストラリアのような大規模な被害をもたらす長期的な森林火災が増加傾向にあります。

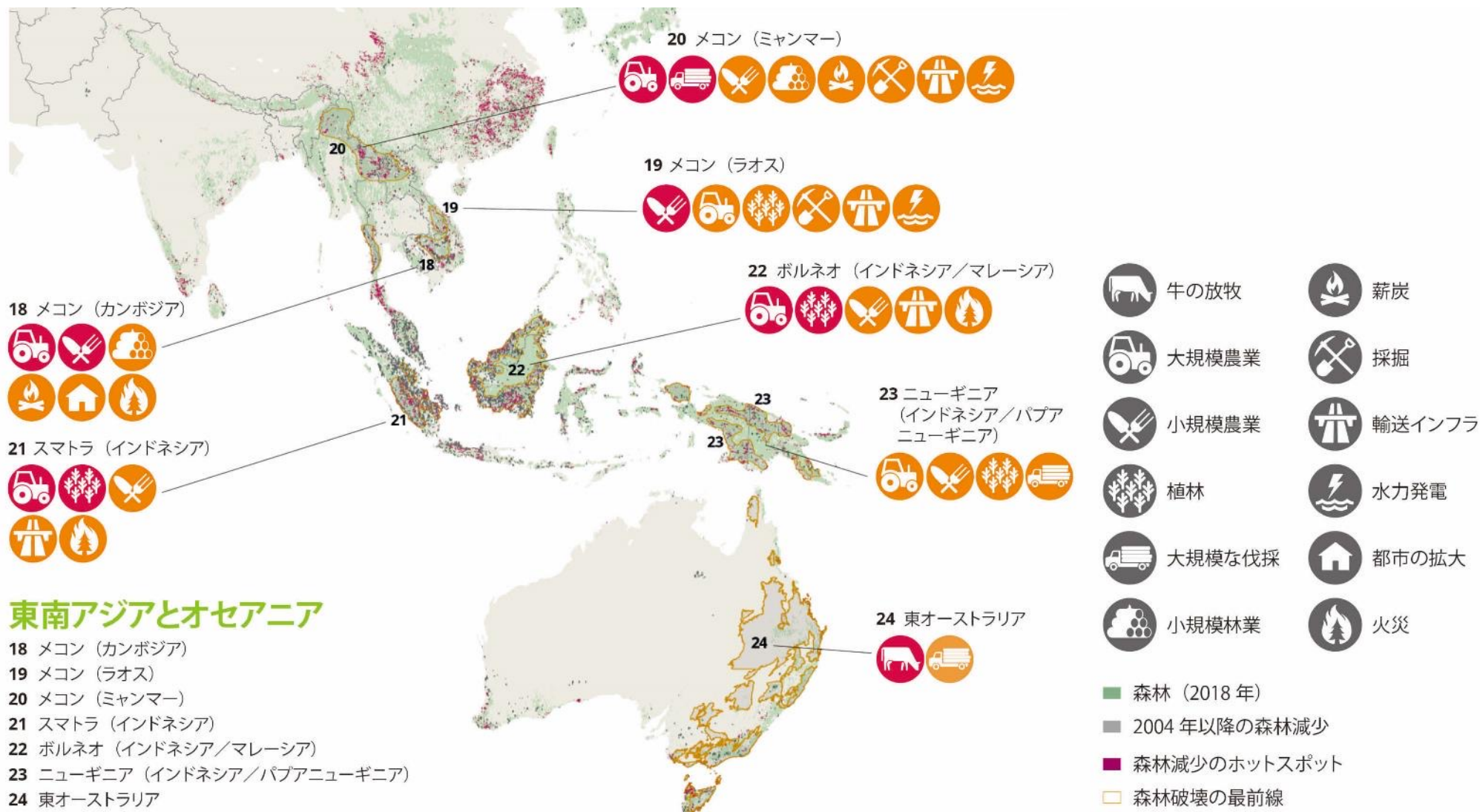


地下資源の採掘

スマートフォンや電子機器に使われている金属類を採掘するために、その上にある森林が破壊されているケースもあります。私たちの暮らしを豊かにするものが間接的に森林破壊につながっていることもあるのです。

森林破壊の原因 (3/3)

下図は、地域別の森林減少と森林劣化の原因を示していますが、森林減少の原因は、地域によってもさまざまであることがわかります。



※ 出典: WWFジャパン「森林破壊の最前線: 変わりゆく世界における森林減少の要因と対応 要約版」p.8, p.9 <https://www.wwf.or.jp/activities/activity/4547.html>

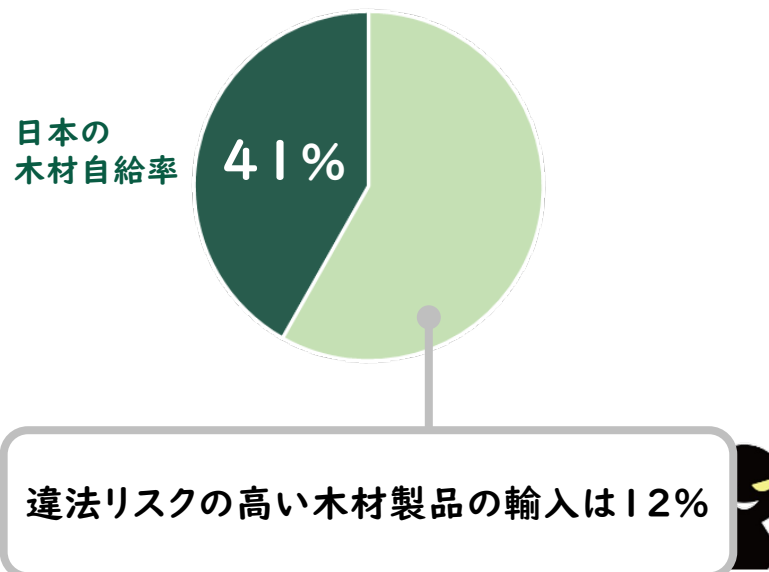
日本の消費が及ぼす森林への影響

日本は製材（丸太を鋸挽きした木材製品）の消費量も紙の消費量も世界で5位以内。一方で、日本の木材自給率は4割で、6割を輸入で賄っています。つまり日本で消費されている木材および紙は国外の森林に支えられているのが現状です。しかしながら、日本に輸入されている木材や紙製品のうち、違法リスクの高いものも混在していると考えられており、日本にいる私たちが、知らず知らずのうちに違法伐採された木を使っている可能性があるのも事実です。

製材・紙の消費量 ランキング(2019)

製材		紙	
1位	中国 	1位	中国 
2位	アメリカ 	2位	アメリカ 
3位	ドイツ 	3位	日本 
4位	カナダ 	4位	インド 
5位	日本 	5位	ドイツ 

日本の木材自給率(2020)と違法輸入の推定レベル



FSCマーク

FSCマークとは、森林の環境や地域社会に配慮して作られた製品であることを示すマークです。

FSCの定めた基準をもとに、適切に管理されていると認められた森林から生産された木材や、回収材等の責任をもって調達された原材料から生産された製品に、FSCマークを付けることができます。

すなわち、**FSCマークのついた製品を選ぶことで、誰でも普段の生活の中で「森を守る」アクションに参加することができます。**



FSCラベルは3種類



※このラベルはダミーです

FSC 100%	FSC認証林からの原料を100%使用している製品に付けられる。
FSCミックス	FSCが認めている適格な原材料（FSC 100%、FSCミックス、FSCリサイクル、FSC管理木材、回収原材料）が複数使用されている製品に付けられる。適格な原材料間には優劣が付けられており、例えばパーセンテージシステムに基づいて生産される製品の場合、FSC 100%等の優位な原材料が70%以上使用されなければFSCラベルは付けられない。
FSCリサイクル	回収原材料を100%使用している製品に付けられる。木材製品の場合は、回収原材料の70%以上がポストコンシューマー（きちんと消費者の手に渡り、使用されてから回収された原材料）である場合に付けられる。

FSC認証

FSC認証は、森の動物や植物、そこで働く人たち、暮らす人たちの権利を守り、将来も豊かな森を維持できるように、森林の環境や地域社会に配慮してつくられた製品を、消費者に届けるための制度です。

認証は2種類あります。

1つめは森林が責任をもって管理されているかを審査し、認証する『**FM (Forest Management、森林管理) 認証**』、2つめは、認証林から収穫された認証材が最終製品になるまでの加工・流通過程を認証する『**CoC (Chain of Custody、加工・流通過程) 認証**』です。

原則として、認証林から生産された木材でも、FSCマーク付きの最終製品となるまでは、CoC認証を取得した組織でないと、それをFSC認証製品として販売することはできません。













FSC認証

FSCマークは、国際的に認められた2つの厳しいチェック基準をもとに、第三者機関が審査した製品だけについています。

森林を管理する人のための『FM認証』

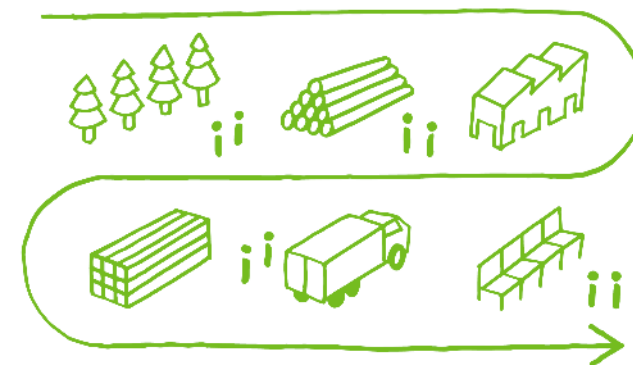
FM認証の審査は、世界的に統一された10の原則と70の基準に基づいて行われます。

-  1 法律や国際的なルールを守っていること
-  2 働く人の権利や安全が守られていること
-  3 先住民族の権利を尊重していること
-  4 地域社会を支え、よい関係を築いていること
-  5 ささまざまな森の恵みを活かし、それらを絶やさないこと
-  6 豊かな森林の自然環境を守ること
-  7 いろいろな意見を聞きながら、森の管理を計画すること
-  8 森や管理の状態を定期的にチェックすること
-  9 環境や文化など、その森が持つ大切な価値を守ること
-  10 環境に配慮した管理活動をきちんと実施していること

10の原則について、より詳しい内容はこちらからご覧いただけます 「FSCの原則と基準」 https://jp.fsc.org/jp-ja/media/P_and_C

木を加工する人、売買する人の『CoC認証』

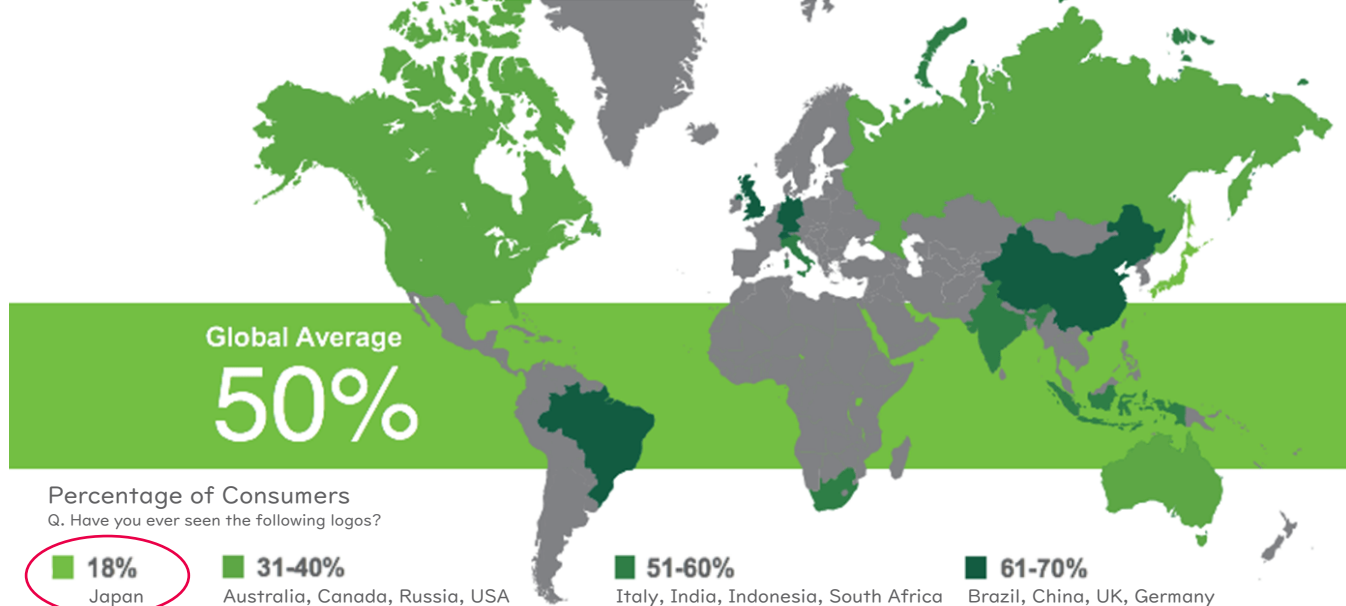
加工・流通過程でFSC認証材が他の不適格な木材（例：違法木材など）と混ざってしまっは意味がありません。木材が製品となり消費者の手に届くまで、長く複雑な加工・流通過程を経ますが、その過程で不適格な木材と混ざることがないように管理しているかチェックしています。



FSCの認知度

世界における認知度

2017年の調査によると、FSCマークの認知度は世界全体の平均は50%でしたが、日本は18%という非常に低い結果でした。

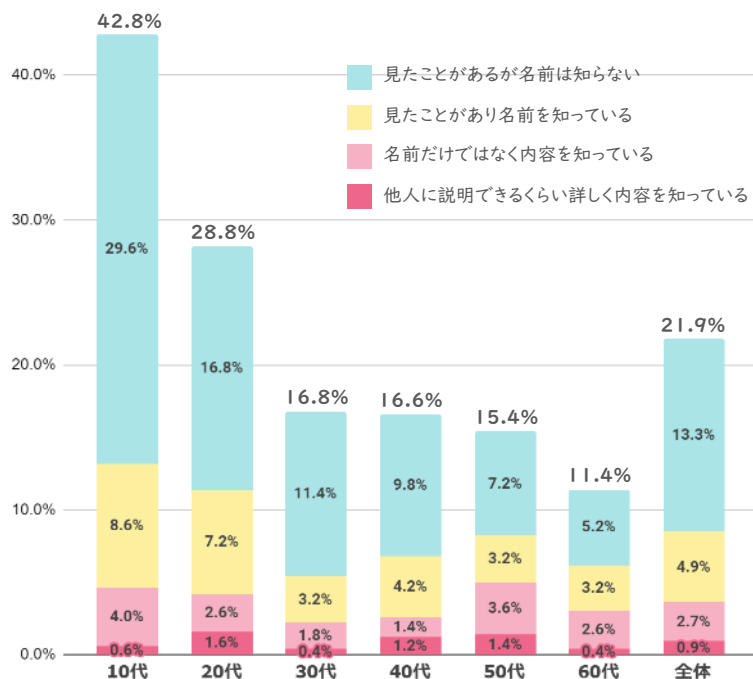


日本国内の認知度

2020年にFSCジャパンが行った調査では、「見たことがあるが名前は知らない」まで含めると21.9%であり、年代別に見ると、10代の認知率が最も高く42.8%という結果でした。しかし、「内容を知っている」という人は10代の人でも5%以下であり、まだまだ少ない状況です。

ですので、FSCマークの認知率が最も高い10代の人たちが、このマークの内容を理解して、行動にうつしていけるかという点が、森林保全につながる消費活動がスタンダードになるために、非常に重要なポイントになると考えられます。

FSCマークについてどの程度知っているかお答えください



FSCとSDGs

FSCマークは、環境だけではなく人権など社会的貢献度も高く、SDGsで定められた17の目標の内、14の目標と40項目のターゲット(達成基準)に対して貢献することができます。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



より詳しい内容はこちらからご覧いただけます

「FSC:持続可能な開発目標を達成するためのツール」 https://jp.fsc.org/jp-ja/media/FSCandSDGs_detail

国内のFSC認証林 問合せ先一覧

国内のFSC認証林は下記の地域がございます。ぜひ地域のFSC認証林についても調べてみてください。また、各地のFSC認証林へのお問い合わせは、下記をご参照ください。

地方	所在県	組織名	事務所所在地	HPアドレス	メールアドレス	電話番号
北海道地方	北海道	下川町(担当:農林課)	〒098-1206 北海道上川郡下川町幸町63番地	https://www.town.shimokawa.hokkaido.jp/jigyo/2016/08/post-15.html	-	01655-4-2511
	北海道	美幌町	〒092-8650北海道網走郡美幌町字東2条北2丁目25番地	http://www.town.bihoro.hokkaido.jp/docs/201511250018/	krinmug@town.bihoro.hokkaido.jp	0152-77-6547
東北地方	福島 青森	三菱製紙株式会社 (白河事業所内 エコシステムアカデミー)	〒961-8054 福島県西白河郡西郷村字前山西3番地	https://www.mpm.co.jp/ecosystemacademy/index.html	ecoaca@mpm.co.jp	0248-22-8111
	福島	遠野興産株式会社	〒972-0163 福島県いわき市遠野町根岸字石田44-3	http://www.toono.co.jp/	h-nakano@toono.co.jp	0246-89-2172
	宮城	南三陸森林管理協議会	〒986-0728 宮城県本吉郡南三陸町志津川天王山138-3	http://mfsa.jp	-	-
	宮城	登米市森林管理協議会 (事務局:登米市産業経済部農林振興課)	〒987-0602 宮城県登米市中田町上沼字西桜場18番地	https://forest100.jp/FSC/index.html	norinshinko@city.tome.miyagi.jp	0220-34-2709
	岩手	気仙地方森林組合	〒029-2311 岩手県気仙郡住田町世田米川向99-1	https://www.kesenmori.com/FSC.html	mori2621@oregano.ocn.ne.jp	0192-46-2621
	岩手	岩泉町 (担当:農林水産課)	〒027-0595 岩手県下閉伊郡岩泉町岩泉惣畑59-5	http://iwaizumi-forest.jp/	iwaizumi-info@town.iwaizumi.lg.jp	0194-22-2111
	岩手	北越コーポレーション株式会社 岩手社有林	〒103-0021 東京都中央区日本橋本石町3-2-2	https://www.hokuetsucorp.com/environment/protection02.html	-	03-3245-4867
	岩手	釜石地方森林管理協議会	〒026-0302 岩手県釜石市片岸町第1地割1番地1	https://kamamorikumi.jp/	yukiotakahashi@kamamorikumi.jp	0193-28-4244
関東地方	東京	宗教法人真如苑 (受託事業者:多摩農林)	〒198-0031 東京都青梅市師岡町4丁目2-5	https://www.tamanorin.co.jp/	ome-mori@tamanorin.co.jp	0428-20-8228
	群馬	東京電力リニューアブルパワー株式会社	〒100-8560 東京都中央区内幸町1-1-3	https://www.tepco.co.jp/oze/mamoru/forest/index-j.html	kikuchi.shiroh@tepco.co.jp	090-6720-6572
	東京	檜原村	〒190-0212 東京都西多摩郡檜原村467-1	http://www.fujinomori.net/furusato/index.html	-	-
	東京	株式会社東京チェーンソーズ	〒190-0214 東京都西多摩郡檜原村654番地	https://tokyo-chainsaws.jp/about/ninshou/	-	-





国内のFSC認証林 問合せ先一覧

国内のFSC認証林は下記の地域にございます。ぜひ地域のFSC認証林についても調べてみてください。また、各地のFSC認証林へのお問い合わせは、下記をご参照ください。

地方	所在県	組織名	事務所所在地	HPアドレス	メールアドレス	電話番号
中部地方	岐阜	岐阜県グループ	〒500-8384 岐阜県岐阜市藪田南2丁目1-1	https://www.pref.gifu.lg.jp/page/2621.html	cl1513@pref.gifu.lg.jp	058-272-8255
	静岡	天竜林材業振興協議会	〒430-8652 静岡県浜松市中区元城町103-2	https://www.city.hamamatsu.shizuoka.jp/ringyou/porta/ringyou/fsc/whats.html	ringyou@city.hamamatsu.shizuoka.jp	053-457-2159
	静岡	F-net 大井川	〒427-0233 島田市身成162番地	https://www.oogawa-forest.jp/forest/	shinrin-oogawa@snow.ocn.ne.jp	0547-30-2111
	静岡	遠州森林認証グループ	〒437-0208 静岡県周智郡森町三倉826-2	http://www.forest-morimachi.or.jp/fsc.html	sinrinkanri@forest-morimachi.or.jp	0538-86-0211
近畿地方	山梨	山梨県(担当:林政部県有林課)	〒400-8501 山梨県甲府市丸の内1-6-1	https://www.pref.yamanashi.jp/miryoku/shizen/mori/fsc.html	https://www.pref.yamanashi.jp/miryoku/shizen/mori/fsc.html	055-223-1623
	兵庫	日本土地山林株式会社	〒679-3431 兵庫県朝来市新井777	https://www.nihontochisanrin.co.jp/hyogo/forest/wood.html	r-yoshimoto@nihontochisanrin.co.jp	079-677-0536
	兵庫	公益社団法人ひょうご農林機構	〒650-0011 兵庫県神戸市中央区下山手通5丁目7-18	https://www.forest-hyogo.jp/	tadasu_koujirou@forest-hyogo.jp	078-361-8122
	三重	尾鷲林政推進協議会 おわせ森林管理協議部会	〒519-3408 三重県北牟婁郡紀北町便ノ山200	http://www.owase.or.jp/promotion-council/	mono_owase@owase.or.jp	-
	三重	トヨタ自動車株式会社	〒471-8571 愛知県豊田市トヨタ町1番地	https://www.toyota.co.jp/jpn/sustainability/social_contribution/feature/forest/mie/	t.suzuki@mail.toyota.co.jp	-
	中国地方	広島	アサヒグループジャパン株式会社(アサヒの森)	〒130-8602 東京都墨田区吾妻橋1-23-1	https://www.asahigroup-holdings.com/csr/asahi_forest/	csrpost@asahigroup-holdings.com (サステナビリティポスト)
四国地方	鳥取	日南町森林組合	〒689-5211 鳥取県日野郡日南町生山423-2	https://n-forest.jp.net/fsc1.html	info@n-forest.jp.net	0859-82-0130
	岡山	西粟倉村	〒707-0503 岡山県英田郡西粟倉村影石33番地1	http://www.vill.nishiwakura.okayama.jp/	sankan@vill.nishiwakura.lg.jp	0868-79-2230
	高知	四万十町森林組合(大正支所)	〒786-0007 高岡郡四万十町古市町10-14	https://www.shimantohinoki.or.jp/fsc.php	k.yamamoto@shimantohinoki.or.jp	0880-27-0119
	徳島	JAG フォレスト株式会社	〒100-0005 東京都千代田区丸の内三丁目1番1号	https://www.jagforest.co.jp/service/index.html	info.jagforest@solable.co.jp	-
九州地方	大分	九州電力株式会社 (管理会社:九州林産株式会社)	〒879-5104 大分県由布市湯布院町中川815-1	https://www.q-rin.co.jp/business/forestry/fsc	-	0977-84-3161
	宮崎	諸塚村(担当:産業課)	〒883-1301 宮崎県東臼杵郡諸塚村家代2683	https://www.vill.morotsuka.miyazaki.jp/sinrinninsyoseido-3/	yutaka.kai@morotsuka.jp	0982-65-1128

本授業の構成

- ・ 推奨科目,単元: 高校・公共「環境倫理」, 中学・公民「さまざまな国際問題」
- ・ ※現代社会、総合的な学習(探究)の時間やLHRなどで実施していただいてもかまいません。
- ・ 授業時間: 1 コマ 50 分の場合を想定 ※詳しい授業内容は「進行台本」をご参照ください。

08:00	【8分】 導入 事実を知る		森林の減少と劣化の現状を知る <ul style="list-style-type: none">・ 地球環境問題の1つである「森林の減少と劣化」について、現状を知る。・ 森林の減少と劣化が起きる原因を理解する。
24:00	【16分】 展開 身近に感じて深く考える		森林の減少と劣化が及ぼす影響を理解し、何ができるか考える <ul style="list-style-type: none">・ 森林が果たす役割を知り、森林が無くなると野生生物だけでなく、人も地球に住めなくなることを知る。・ 日本の現状を知り、森林減少は自分にとって身近な問題であることを理解する。・ 森林減少を防ぐために何ができるかを考える。
45:00	【21分】 ワーク 自分ができることを考える		FSC認証を知る <ul style="list-style-type: none">・ FSC認証の詳しい内容(2つの認証など)を学び、このマークがついている製品を購入することが森を守ることにつながることだと理解する。 ワーク FSCマークの普及アイデアを考えよう <ul style="list-style-type: none">・ 身近にあるFSCマークを見てみることで、どのようなモノにマークがついているか確認する。・ 学校,家庭,地域でできるFSCマークの普及策を考えさせる。 ※日本ではFSCマークの認知度が他国より低く、認知を広めることが「森を守る」行動になることを理解させる ※実際に行動を起こすために、「第4回 FSCアワード」があることを紹介
50:00	【5分】 まとめ		まとめ & アンケート <ul style="list-style-type: none">・ 森林の減少と劣化の現状のおさらいと 第4回 FSCアワードについて紹介・ アンケート回答 アンケートはWeb回収、紙回収の2タイプをご用意しております。アンケートの回答は、翌年度の授業改訂のために活用され、いただいた回答内容は、弊社にて集計をおこないレポートとして先生にお戻りする予定です。

3/3 | 締切

第4回 FSCアワードへの応募 ※ 授業での学びを行動にうつす場として、ぜひアワード応募をご活用ください。

授業制作のパートナー

当教材は、FSCジャパンとともに開発。当団体は、FSC国際事務局から正式に承認された、日本の窓口となる組織です。日本国内におけるFSC森林認証の普及や、国内を対象とした規格の検討と作成を行っているNPO法人です。

森林破壊,保全およびFSCに関する専門知識/監修



+

授業用教材制作の専門知識/ノウハウ

ARROWS

『未来の森を守るFSCマーク』

- ①授業用スライド ②ワークシート ③FSC事例紹介冊子 ④授業進行台本 ⑤授業概要資料



授業後のアンケートについて

もしよろしければ、授業後にアンケート回答をお願いいたします。いただいたアンケート結果はARROWSにて集計を行い、以下のようなレポートとして、先生にお戻りする予定ですので、ぜひご協力くださいますよう、お願いいたします。

- 生徒アンケートは集計し、全国平均と貴校の数値比較などのレポートを先生にお戻しいたします。
- レポートは当授業を実施した全国の生徒回答の平均と貴校のデータを比較したものを想定しております。
- アンケートには個人情報の記載欄はありませんので、ご安心ください。
- データの集計が完了次第、当授業をお申し込みいただいた先生宛にメールにてレポートのご案内をお送りいたします。



授業で使用する資料へのリンク

当授業の教材データは以下のURLからダウンロードしていただけます。

生徒・先生アンケート欄に記載しているURLはアンケート回答フォームへ遷移します。

<http://bit.ly/fscjapan2022>

1. 教材セット

ダウンロードのうえ、適宜編集してお使いください。

※教材データすべてについて、無断複製・転載を禁じます。

http://bit.ly/stu_fscjapan22

2. 生徒アンケート

授業内容改善のため、授業の最後に生徒の皆さんへのアンケート実施をお願いいたします。申込時に、「紙での回答を希望」された場合、アンケートの回収後、事前にお送りする返送用封筒に入れてご返送をお願いいたします。

http://bit.ly/tea_fscjapan22

3. 先生アンケート

事務局より、先生向けアンケートをお送りいたします。また、右記QRコードからもご回答いただけます。ご協力のほど、よろしくお願いいたします。



FSCジャパン 団体概要

FSC (Forest Stewardship Council[®], 森林管理協議会) は、森林の適切な利用と保全を目的に、環境団体、林業者、林産物取引企業、先住民団体などを中心に、1994年に設立された独立した非営利団体です。

FSCジャパンは、FSC国際事務局から正式に承認された、日本の窓口となる組織です。日本国内におけるFSC森林認証の普及や、国内を対象とした規格の検討と作成を行っているNPO法人です。



ARROWS 会社概要

1,200万人の子どもが毎日通う学校を支える、100万人の日本の先生。
わたしたちは、「先生から、教育を変えていく」というビジョンのもと、教育現場における課題解決を支援していく企業です。

会社名 株式会社ARROWS

代表取締役 浅谷 治希 / Haruki Asatani

1985年生まれ。慶應義塾大学経済学部卒。在学中の起業を経て、Benesse Corporationに新卒入社。2013年2月に株式会社LOUPE(現株式会社ARROWS.)を設立。世界経済フォーラムの若手組織「Global Shapers」に2015年に選抜される。

設立 2013年2月14日



メディア掲載

朝日新聞

東洋経済

読売新聞



NIKKEI

Forbes JAPAN